

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
M3440302		病理・細胞診断学 (Pathology and Cytodiagnosis)					生命健康科学コース専門分野	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3	医学部先進医療科学科	後期	金4,金5	日本語		オムニバス							
担当教員	氏名 内田 智久、八尋 隆明 E-mail takaaki-816@oita-u.ac.jp 内線 5712														
授業の概要	病理・細胞診断学 は、病理・細胞診断学 の講義を受講し、病理・細胞診断学的な基礎知識及び技術を学修して、実際に生体の一部、または生体から採取した細胞の顕微鏡標本を作製、必要な技術・手技(固定・包埋・染色等)、標本を染色(HE染色、パバニコロウ染色)、光学顕微鏡によって詳細に観察し、人体内部を構成する組織や細胞の形態的特徴および染色法の演習を行い、疾病の成因と病態についてさらに深く理解する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 標本作製の主旨、目的を説明できる。															
目標2 組織や細胞の形態的特徴および染色の意義を説明できる。															
目標3 疾病の成因と病態について深く説明できる。															
目標4 組織・細胞診標本を作製し、それを評価できる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							6	1						3	
授業の内容															
1	切り出し・固定・包埋														
2	切り出し・固定・包埋														
3	演習(学内実習) 切り出し・固定・包埋(1)														
4	演習(学内実習) 切り出し・固定・包埋(1)														
5	演習(学内実習) 切り出し・固定・包埋(2)														
6	演習(学内実習) 切り出し・固定・包埋(2)														
7	演習(学内実習) 切り出し・固定・包埋(3)														
8	演習(学内実習) 切り出し・固定・包埋(3)														
9	組織検査法:組織標本の作成・染色・観察・評価法														
10	組織検査法:組織標本の作成・染色・観察・評価法														
11	演習(学内実習) 組織特殊染色法(PAS染色、グロコット染色)(1)(検査結果の解析と評価)														
12	演習(学内実習) 組織特殊染色法(PAS染色、グロコット染色)(1)(検査結果の解析と評価)														
13	演習(学内実習) 組織特殊染色法(ベルリン青染色、アミロイド染色)(2)(検査結果の解析と評価)														
14	演習(学内実習) 組織特殊染色法(ベルリン青染色、アミロイド染色)(2)(検査結果の解析と評価)														
15	演習(学内実習) 組織特殊染色法(EVG染色)(3)(検査結果の解析と評価)														
16	演習(学内実習) 組織特殊染色法(EVG染色)(3)(検査結果の解析と評価)														
17	演習(学内実習) 組織特殊染色法(アザン染色)(4)(検査結果の解析と評価)														
18	演習(学内実習) 組織特殊染色法(アザン染色)(4)(検査結果の解析と評価)														
19	細胞診検査法:材料別検査法														
20	細胞診検査法:材料別検査法														
21	細胞診検査法:標本作成・染色・観察・評価法														
22	細胞診検査法:標本作成・染色・観察・評価法														
23	演習(学内実習) 細胞診検査法:標本作成・染色・観察・評価法(1)(検体の観察と処理・保存)														
24	演習(学内実習) 細胞診検査法:標本作成・染色・観察・評価法(1)(検体の観察と処理・保存)														
25	演習(学内実習) 細胞診検査法:標本作成・染色・観察・評価法(2)														
26	演習(学内実習) 細胞診検査法:標本作成・染色・観察・評価法(2)														
27	演習(学内実習) 細胞診標本検鏡(正常細胞)(1)(検査結果の解析と評価)														
28	演習(学内実習) 細胞診標本検鏡(正常細胞)(1)(検査結果の解析と評価)														
29	演習(学内実習) 細胞診標本検鏡(異常細胞)(2)(検査結果の解析と評価)														
30	演習(学内実習) 細胞診標本検鏡(異常細胞)(2)(検査結果の解析と評価)														
ラーニング	A:知識の定着・確認	A:小テスト				工 夫 其 他 の	A:知識の定着・確認 ○ 小テスト ・組織や細胞の停滞的特徴を習得し、検査法を理解する。さらに実習を通してその原理や評価を具象化する。 ・学生個々が考え、意見を述べる機会を頻繁に設ける。								
	B:意見の表現・交換	B:講義中に発問													
	C:応用志向	C:実習・課題レポート													
	D:知識の活用・創造														

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	指定教科書の事前学習（15h）。										
	事後学修	授業での学習を活かし、小テストや配布資料を用いて復習する（30h）。										
	想定時間合計	45										
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『最新 臨床検査学講座 病理学/病理検査学 第2版』医歯薬出版、2016年、松原修・鴨志田伸吾・大河戸光章・小松京子・古田則行（著者）ISBN978-4-263-22364-2 											
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『病理検査技術教本』丸善出版、2025年、一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会（監修）2025/01/31 9784621310458 『細胞検査技術教本』丸善出版、2025年、一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会（監修）2025/01/31 9784621310847 											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	レポート	20%										
	期末試験	80%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無	有無											
教員の 実務 経験	内田（病理医） 八尋（細胞検査士、遺伝子分析科学認定士、ICD、臨床検査技師）											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	本学医学部附属病院の細胞検査士											
実務経験を いかした教 育内容	細胞検査士としての活動経験を生かし、臨床現場で活用している組織・細胞診検査法についての実践的な実習を行う。											